平成３１年3月２９日

保護者の皆様

平成３０年度鹿児島定着度調査結果について

鹿児島市立宮小学校
校長　　寺地　光博

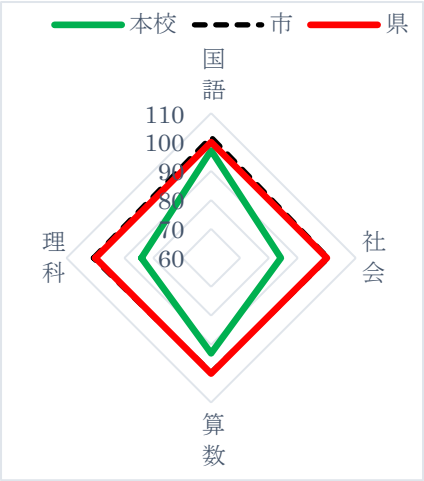
新緑の候，保護者の皆様におかれましては，ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校教育活動に御理解，御協力を賜り，誠にありがとうございます。

さて，平成３０年度鹿児島定着度調査結果について下記のとおり御報告いたします。これからも，地域や家庭と連携しながら，子どもに確かな学力を定着させるために指導法の工夫・改善を図っていきますので，今後ともよろしくお願いいたします。

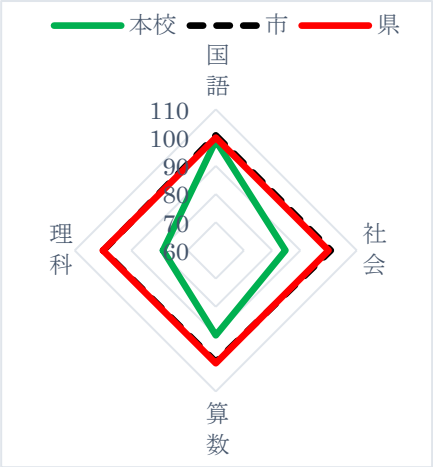
記

１　本校・市・県の平均正答率の比較（鹿児島県の通過率を 100 としたときの鹿児島市・本校との比較）

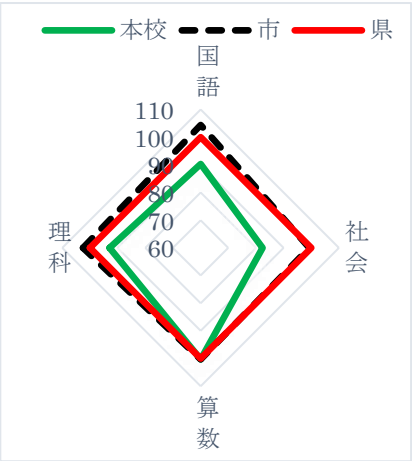
（全体）



（基礎・基本）



（思考・表現）



２　自校の課題に対する改善策

【国語】
○　「言語に関する事項」は，県平均と同じ正答率である。漢字練習など日頃の取組が成果を上げていると言える。
●　「読むこと」「書くこと」について落ち込みが見られた。長文読解に対しては，表現に即した細かい読み取りだけでなく，全体の構成を捉えた読み方もできるように単元の指導計画を工夫する。また，題意に沿った表現ができるように，時間や時数の制限を設定したなかで書く活動を取り入れていく。

【社会】
○　観点別に見ると「知識・理解」は正答率が高く，確実に理解し覚えていると言える。
●　「思考・判断・表現」に落ち込みが見られた。グラフ等の数値を読み取ったり，学習用語等を覚えたりするだけでなく，根拠（事実と理由）を考える活動を繰り返して行い，関連付けた意味理解ができるようにする。

【算数】
○　領域別にみると「数と計算」は８割近くの正答率があり，計算の方法は身に付いていると言える。
●　「数量関係」「量と測定」などについては，６割前後の正答率である。授業の中で自力解決の時間を十分に確保したり，話合い活動を取り入れたりしながら考えを深めさせる。また，終末の時間には適用問題に取り組ませ，学力の定着を図る。

【理科】
○　無答のある児童が１名のみで，教科に対する関心は高いと考えられる。
●　「観察・実験の技能」の内容に落ち込みが見られる。実験や観察を行う際には，条件を意識した実験をさせ，問題解決的な学習を行っていく。さらに，結果だけで終わらず，考察を大切にしながら理解を深めさせていく。前学年までの既習事項が定着していないので，常に，関連学習を想起させるなど系統立てた学習を展開していく。

【全体的に】
・無答の割合が低く，自分なりに解答しようという姿勢は出ている。しかし，題意に沿った表現ができず正答につながっていない。問題文を早く正確に読みとり内容を正しく理解できるように，練習問題を行う際には，時間を区切って行わせたり，より多くの課題に取り組ませたりして定着を図るようにする。
・家庭学習の取組で，複数の教科を活用して調べさせたり，条件に応じてまとまった文章を書かせたりする学習などを取り入れ，内容を充実させていくようにする。